

# 福岡県共助社会づくり 基金ニュース

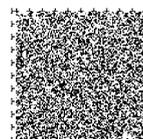
令和6年度事業報告書



つながる・ひろがる  
共助の未来

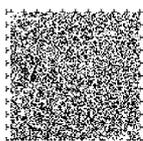


コラボステーション福岡



# CONTENTS

福岡県共助社会づくり基金について	2
寄附金の種類・手続き／寄附のメリット	3
基金を活用した助成事業(ふくおか地域貢献活動サポート事業)	4
寄附者のご紹介	5～8
令和6年度ふくおか地域貢献活動サポート事業	
[自由提案型]	
1. 知ってもらおう、創りだそう、直鞆のたまがる 第3弾	9
2. 自立型高齢者住宅、日本型CCRCの計画運営ハンドブックの作成	10
3. 幸せねこプロジェクト	11
4. 諏訪川を彩るランタンに願いを載せて	12
5. 「警固界限」と呼ばれる若者達の実態調査と包括的支援体制の構築	13
6. インクルーシブ スマイルコンサート	14
7. 不登校・ひきこもりの人及びその家族の「ほっとスペース」事業	15
8. 多言語で創るノンバーバル演劇	16
9. LGBTQ+当事者と家族、支援者のための居場所&悩み事相談事業	17
10. 地域の環境分野における未来のリーダーを養成する体験型学習会	18
11. マイライフプログラム～女性就活準備講座～	19
12. EMIARE Project 青少年交流&環境保全活動	20
[テーマ型-災害支援枠]	
1. 視覚障がい者の災害時における避難に関する情報提供と実態調査	21
[テーマ型-困難な状況にある子どもの支援枠]	
1. こども食堂運営事業と子どもたちに第4の居場所を確保する事業	22
2. 人と本の方で、子どもたちが豊かな未来を築くための居場所作り事業	23
3. 農福連携「サツマイモプロジェクト」事業	24
4. 『ばあばのお家(おうち)』	25
5. 学校に行きづらい子、社会になじめない人への自立支援事業	26
6. 社会的養護の子どもたちの交流・体験応援事業	27
7. えほん楽団 みんなのこどもコンサート	28
8. 不登校児童生徒とその保護者を地域につなぐ架け橋事業	29
[テーマ型-健康増進枠]	
1. 医療とアートの協働で演劇ワークショップを開発・実施する事業	30



# 福岡県共助社会づくり基金について

福岡県では、NPOや企業、行政などの多様な主体が地域の課題を解決するため、互いに支え合い、共に助け合う「共助社会」の実現を目指しています。

福岡県共助社会づくり基金は、この趣旨にご賛同いただいた県民や企業の皆さんの思いを「寄附」というかたちでお預かりし、「多様な主体が協働して地域課題の解決に取り組む社会貢献活動」へとつなぐ基金です。

特徴

01

## 寄附者の思いを受けとめます

「広く地域課題の解決を図る取組を応援したい」という県民や企業の皆さんから「寄附」をお受けします。寄附者が、応援したい活動分野やテーマを指定して寄附することもできます。

特徴

02

## 課題解決に取り組む団体へとつなぎます

お預かりした寄附は、多様な主体が協働して地域課題の解決に取り組む社会貢献活動へ助成を行う「ふくおか地域貢献活動サポート事業」に活用します。多様な主体が協働して取り組む事業の企画案を募集し、審査を経て助成対象となる協働事業を決定します。

特徴

03

## 事業の成果をお知らせします

実施された協働事業の成果は、成果発表会の開催や報告書「福岡県共助社会づくり基金ニュース」の発行などを通じて、広く県民の皆さんにお知らせします。

特徴

04

## 寄附者は税制上の優遇措置が受けられます

福岡県共助社会づくり基金へのご寄附は、税制上の優遇措置の対象となります。詳しくは3ページをご覧ください。

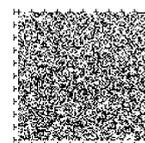
特徴

05

## 寄附された方のお名前を公表します

寄附者のお名前(企業名)は、広く県民の皆さんに公表します。詳しくは3ページをご覧ください。

## 基金のしくみ



# 寄附金の種類／寄附の手続き

**普通寄附金** 共助社会づくりの活動を広く応援したい場合

**テーマ型寄附金\*** 特定のテーマを応援したい  
※個別のテーマ指定ができるのは50万円から

テーマ例:過去に実施したテーマはこちら

環境保全活動、地震・豪雨災害の被災地支援、困難な状況にある子どもの支援、  
 県民の健康増進活動

テーマの  
 内容については  
 ご相談ください。

## 1.ご相談



まずはコラボステーション福岡  
 にご相談ください。

## 2.お申し込み



寄附金申込書をお送りします。ご  
 記入後、郵便・ファックス・電子  
 メールのいずれかでお申し込み  
 ください。

## 3.払い込み



振込手数料はかかりません。

福岡県から納付書を送付いたし  
 ますので、お近くの金融機関で  
 お振込みください。

## 寄附をすることで、2つのメリットがあります。

### ■税制上の優遇措置を受けることができます

**企業の場合** 資本金の額にかかわらず、寄附金の全額を損金算入することができます。

#### 個人の場合

##### 所得税

[寄附金額の合計額-2,000円]×所得税の税率  
※なお、控除の対象となる寄附金額は総所得金額等の40%が上限です。

##### 個人住民税

- ①基本控除  
 [寄附金額-2,000円]×10%  
※なお、控除の対象となる寄附金額は総所得金額等の30%が上限です。
- ②特例控除  
 1.[寄附金額-2,000円]×[100%-10%(基本分)-所得税の税率]  
※この特例分が住民税所得割額の2割を超えない場合  
 2.(住民税所得割額)×20%  
※この特例分が住民税所得割額の2割を超える場合

##### 相続税

相続または遺贈により取得した財産を申告期限内に一定の要件を満たし、  
 寄附した場合、その寄附をした財産は、相続税の課税価格の計算に算入さ  
 れません。

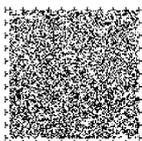


ご確認  
 ください

- 税制上の優遇措置を受けるには、所得税の確定申告が必要です。
- 具体的な控除の額は、各担当部署へお問い合わせください。
  - ・所得税について・・・最寄の税務署
  - ・個人住民税について・・・お住まいの市区町村税務課

### ■お名前を公表させていただきます

ご寄附いただいた方のお名前を「福岡県共助社会づくり基金ニュース」や  
 「コラボステーション福岡ホームページ」に掲載させていただきます。(匿名とすることも可能です)



## 基金を活用した助成事業（ふくおか地域貢献活動サポート事業）

「福岡県共助社会づくり基金」を活用して、NPO、行政、地域コミュニティ、企業などの多様な主体が協働して地域課題の解決に取り組む社会貢献活動を応援する助成事業です。

県が協働事業の企画案を募集し、外部有識者による審査を経て、補助金の交付対象となる事業を決定します。

### 自由提案型

**普通寄附金** を活用し、活動分野を限定しない自由で先進的な発想や専門的なノウハウ等を活かした公益性の高い協働事業

令和6年度：12件 詳細は9ページから20ページ

### テーマ型

**テーマ型寄附金** を活用した、寄附者の意向による一定のテーマに基づく協働事業

令和6年度：テーマ「災害支援」1件

詳細は21ページ

テーマ「困難な状況にある子どもの支援」8件

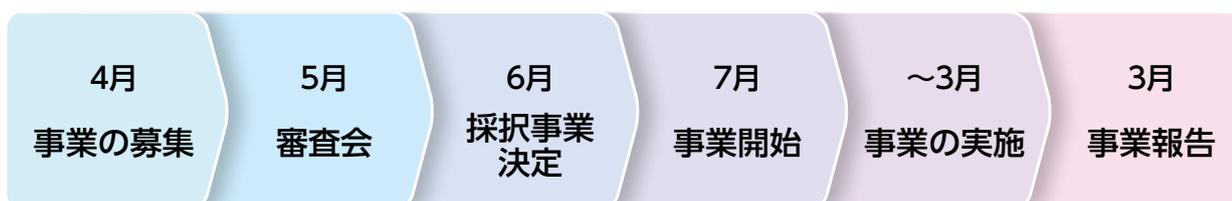
詳細は22ページから29ページ

テーマ「健康増進」1件

詳細は30ページ

## 事業スケジュール

※年度によって変わることがあります



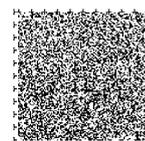
## コラボステーション福岡ホームページのご紹介

コラボステーション福岡ホームページでは、今までにご寄附をいただいた寄附者の皆さんや、寄附金の活用実績などを掲載しています。共助社会づくり基金への寄附を検討されている方、協働事業を応援したい方は、ぜひご覧ください。

<https://www.csf.pref.fukuoka.lg.jp>



ぜひ  
ご覧ください



# イオン九州株式会社

## 【企業紹介】

イオン株式会社は2010年から、「お客さまを原点に地域社会に貢献する」という基本理念の実践のため、全国各地の地域行政と協働し、防災・福祉・環境保全の推進や180券種を超える「ご当地WAON」などを活用した商業・観光の振興など、さまざまな分野で双方が持つ資源を有効に活用するための協定を締結し、活動を展開しています。

イオン株式会社と福岡県は、2012年4月に包括提携協定を締結し、福岡県の活性化と県民サービスの向上に協働で取り組んでいます。その取組のひとつが「ふくおか共創WAONカード」です。これは、全国のイオンのお店や加盟店で使える電子マネーカードで、利用額の0.1%を「福岡県共助社会づくり基金」に寄附し、NPOや企業、行政などの多様な主体の協働による「共助社会づくり」に役立ててもらうものです。この仕組みを御理解いただいた上で、「ふくおか共創WAON」の利用者が増え、寄附の好循環が生まれるように、今後とも地域の暮らしに根ざし、地域社会に貢献し続けることを目指していきます。



2024年7月 イオン九州株式会社からの寄附金贈呈式

写真左から イオン九州株式会社 蛭川徳幸執行役員営業本部中福岡事業部長、イオン九州株式会社 中川伊正代表取締役社長、服部誠太郎福岡県知事、イオン九州株式会社 武富恭子上席執行役員エリア推進部長、ハッピーワオンくん

イオン九州株式会社コーポレートコミュニケーション本部エリア推進部の倉富尚也さんにお話を伺いました。

今年度のふくおか地域貢献活動サポート事業について、ご感想をお聞かせください。

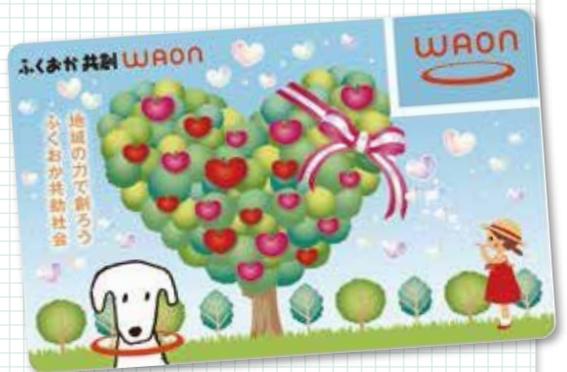
Q

NPOや企業、学校、行政などの皆さまが、環境保全や地域活性化など様々な事業に取り組まれ、いずれの事業も「共助社会づくり」につながる素晴らしい取組だと感じています。

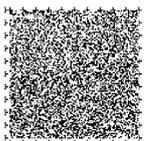
イオングループでは、「お客さまを原点に地域社会に貢献する」という基本理念のもと、地域に密着した活動を続けており、「ご当地WAON」もその一環として取り組ませて頂いております。

また、イオン九州株式会社は、2022年に設立50周年、2024年にイオン九州の前身となる福岡大丸創業70周年となり、2025年、新たな年を迎え、更なる地域活動に貢献できるように取り組んでまいります。

倉富尚也



福岡県のご当地WAON  
「ふくおか共創WAONカード」



# 九州朝日放送株式会社

## 【企業紹介】

九州朝日放送株式会社では、ふるさとの自然環境について、自分たちが暮らす足元から考えていこうと、1997年から「KBC水と緑のキャンペーン」をスタートさせました。KBCのテレビ、ラジオ、イベントなどを通じて環境保護の大切さを訴えるとともに、「KBC水と緑の基金」を募り、視聴者や聴取者の皆様からお預かりした浄財を名木治療や被災地支援に活用してきました。

17回目からは、「福岡県共助社会づくり基金」に寄附をし、NPO・ボランティア団体、企業、行政など多様な主体の協働による環境保護活動や被災地の復興支援などに役立てていただいています。

28回目となった今回のテーマは「Discover!」。

28年目を迎えた今年も地域の魅力や課題をDiscover=発見する企画をテレビとラジオで展開し、ふるさとの自然や食、環境の大切さを皆様とともに考えていきたい、そんなメッセージを込めました。



2024年2月 九州朝日放送株式会社からの寄附金贈呈式

写真左から 九州朝日放送株式会社 森君夫代表取締役社長、服部誠太郎福岡県知事

## 九州朝日放送株式会社総合編成局次長の永山弘二さんにお話を伺いました。

**Q** 今年度のふくおか地域貢献活動サポート事業について、ご感想をお聞かせください。

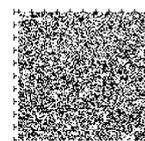
視覚障がい者の災害時の避難方法や防災意識に関する調査活動に活用いただいております。視聴者・聴取者の皆様からお預かりした寄附金を有効に活用いただいていることを大変嬉しく思います。多発する自然災害には平時からの備えが重要ですので、九州朝日放送としてもサポートを継続していければと思います。

永山さん



第28回KBC水と緑のキャンペーン

寄附者のご紹介

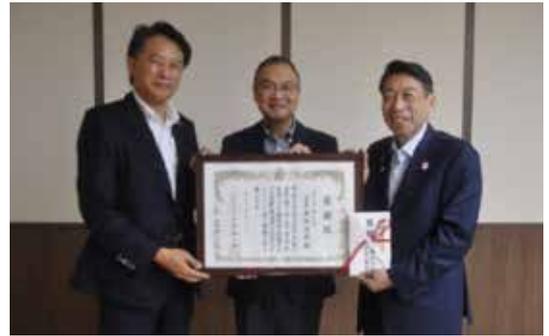


# 大坪G S I 株式会社

## 【企業紹介】

大坪G S I 株式会社は、柳川市に本社を構え、「世の為」「人の為」「地域のため」にどのような貢献ができるか希求し、産業廃棄物処理・リサイクル事業、採石・砕石事業、運送業、建設業、解体業を営んでいます。

県内にある企業として、県の地域課題解決に協力したいと考えており、「福岡県共助社会づくり基金」の理念に共感し、2021年から寄附を行っています。



2024年7月 大坪GSI株式会社からの寄附金贈呈式

写真左から 板橋聡福岡県議会議員、大坪GSI株式会社 大坪尚宏代表取締役、服部誠太郎福岡県知事

大坪GSI株式会社代表取締役の大坪尚宏さんにお話を伺いました。

**Q** 今年度のふくおか地域貢献活動サポート事業について、ご感想をお聞かせください。

大坪さん

将来を担う子どもたちのために少しでも力になればいいと思います。昨年度から、「テーマ型:困難な状況にある子どもの支援枠」に活用いただいています。それぞれの団体が子どもたちに寄り添った活動をされており、嬉しく思います。

大坪GSI株式会社としても、皆様に寄り添い、皆様の困りごとを解決すべく、事業を続けてまいりたいと思っております。

# 明治安田生命保険相互会社

## 【企業紹介】

明治安田生命保険相互会社と福岡県は2022年2月に包括提携協定を締結し、健康づくりやワンヘルスの推進、スポーツの振興など様々な分野で相互に連携を図り、双方の保有する資源を有効に活用した協働の取組を行っています。

その取組の一環として、2022年から「福岡県共助社会づくり基金」に対して寄附を行い、福岡県民の健康づくりに役立てていただいています。この寄附金は、大切な「地元」に想いを届けるため、従業員が、ゆかりのある地域を選んで行う募金に会社が上乗せして寄附を行う「私の地元応援募金」の取組によるものです。



2024年11月 明治安田生命保険相互会社からの寄附金贈呈式

写真左から 明治安田生命保険相互会社 高石洋九州・沖縄地域リレーション本部推進役、明治安田生命保険相互会社 一瀬隆仁福岡支社支社長、大曲昭恵福岡県副知事、明治安田生命保険相互会社 本村剛執行役員九州・沖縄地域リレーション本部長

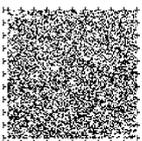
明治安田生命保険相互会社九州・沖縄地域リレーション本部の高石洋さんにお話を伺いました。

**Q** 今年度のふくおか地域貢献活動サポート事業について、ご感想をお聞かせください。

高石さん

「テーマ型:健康増進枠」において、1型糖尿病患者が感じる生きづらさを演劇で地域住民や子どもたちに伝える取組にご活用いただいております。非常に意義のあることだと思います。

明治安田生命保険相互会社としても、福岡県がいつまでも、活気溢れる事を願い、今後も一層支援を継続してまいります。



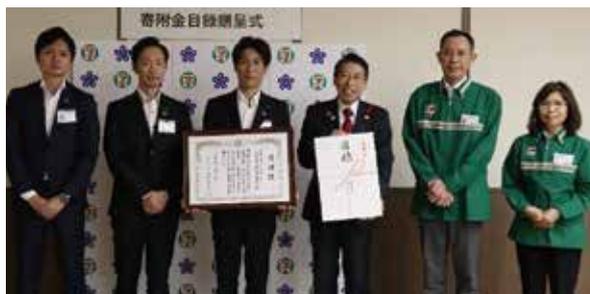
# 株式会社セブン・イレブン・ジャパン

## 【企業紹介】

株式会社セブン・イレブン・ジャパンと福岡県は、2013年11月に包括提携協定を締結し、地域の活性化と県民サービスの向上に協働で取り組んでいます。

その取組の一環として、昨年度、地産地消・県産品販売拡大のため、「おいしか〜福岡フェア」を県内セブン・イレブン全店で実施し、その売上の一部を災害復興支援のため、「福岡県共助社会づくり基金」に寄附しました。

今後も、株式会社セブン・イレブン・ジャパンは「明日の笑顔を共に創る」という企業理念のもと、地域と共に生きる社会を実現していきます。



2024年10月 株式会社セブン・イレブン・ジャパンからの寄附金贈呈式

写真左から 株式会社セブン・イレブン・ジャパン 柴田博貴オペレーション本部北九州ゾーン福岡中央地区ディストリクトマネジャー、株式会社セブン・イレブン・ジャパン 品川虎鉄オペレーション本部北九州ゾーン太宰府地区ディストリクトマネジャー、株式会社セブン・イレブン・ジャパン 有吉敏宣オペレーション本部北九州ゾーンゾーンマネジャー、服部誠太郎福岡県知事、平田浩セブン・イレブン福岡浄水通り店オーナー、平田啓子セブン・イレブン福岡浄水通り店オーナー

## 株式会社セブン・イレブン・ジャパン総務法務本部総合渉外部 北九州ゾーンの光岡美智恵さんにお話を伺いました。

### Q 今年度のふくおか地域貢献活動サポート事業について、ご感想をお聞かせください。

光岡さん

「福岡県の復興に微力ながらも役に立ちたい」と思い、「テーマ型:災害支援枠」に活用いただいています。様々な団体が連携した災害支援活動が行われており、こうした取組を通じ、災害からの復興が加速していくことを、心より願っております。

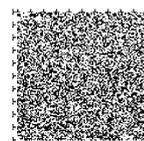
株式会社セブン・イレブン・ジャパンとしましても、福岡県と様々な連携を継続するとともに、これからの10年・20年と地域の皆さまのニーズに応え、「明日の笑顔を共に創り」、愛される店づくりに邁進してまいります。

## ご寄附いただいた皆様

イオン九州株式会社 (令和6年4月・6月)	5,390,348円	自由提案型 子どもの支援枠
株式会社ダイエー (令和6年4月)	278,923円	自由提案型
九州朝日放送株式会社 (令和5年12月)	2,307,423円	災害支援枠
トヨタL&F福岡株式会社 (令和6年4月)	522,160円	災害支援枠
株式会社セブン・イレブン・ジャパン (令和5年11月)	1,000,000円	災害支援枠
大坪GS I株式会社 (令和6年4月)	1,000,000円	子どもの支援枠
明治安田生命保険相互会社 (令和5年11月)	1,126,500円	健康増進枠

ご支援いただき  
ありがとうございました。

※括弧内は寄附金納付年・月



# 知ってもらおう、創りだそう、 直鞍のたまがる 第3弾

## 協議体 ヒーリング

所 在：鞍手郡鞍手町上木月1037

〈構成団体と役割〉

- ◆特定非営利活動法人ドッグセラピージャパン  
企画・運営、広報
- ◆PADEAR合同会社  
企画・運営、広報
- ◆上木月営農組合  
地元住民や事業者との協力関係の構築
- ◆上木月ボランティアの会  
地元住民や事業者との協力関係の構築、企画・広報

〈問い合わせ先〉

### ◆ヒーリング

住所 鞍手郡鞍手町上木月1037  
TEL 0949-28-8252

## 課題・背景・目的

政令指定都市に挟まれ、駅、高速道路のインターチェンジなど、交通の便が良く、果物の産地として有名な直鞍地区だが、県内外からの来客に対して、観光資源など、直鞍地区を回遊してもらうための情報提供が不足しており、通過型の観光地となっている。

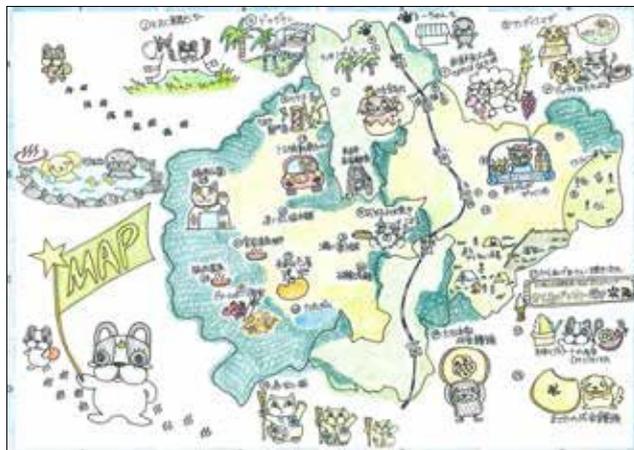
## 工夫した点

NPOが運営する障がい者就労継続支援施設の利用者とともに取材を行うことで、多様な視点を取り入れるとともに、利用者の手書きイラストでマップを作成し、障がいのある方の職域の拡大を図った。また、代表団体の経営するドッグカフェに来店した宮若市の方からも情報を収集し、マップに反映させた。

主な経費 マップデザイン・印刷費、人件費、会議室使用料



ミーティング



完成した手書きMAP

## 主な取組内容

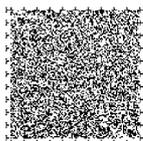
直鞍地区の魅力を伝えるマップを作成し、第1弾は鞍手町の観光資源や地域資源を紹介、第2弾は、直方市の祭りや歴史・文化、ゴルフ場などの魅力を紹介した。第3弾となる今回は、宮若市の温泉を中心とした癒しスポットをマップで紹介することで地域の魅力発信を行った。また、地域住民や事業主に取材することで、普通の観光マップにはない直鞍地区の魅力を引き出した。

## 事業の成果・今後の展開

「直鞍（ちよっくら）のたまがるMAP 宮若市編」を20,000部作成し、観光地、マップ掲載店舗等で配布。ホームページやSNSでマップを紹介した。今後は、地元企業等から寄附や協賛を得ながら、来訪者に直鞍地区を回遊して楽しんでもらえるマップ作成・情報発信を継続していきたい。



下書き作成風景



# 自立型高齢者住宅、日本型CCRCの 計画運営ハンドブックの作成

協議体

## 自立型高齢者住宅推進協議体

所 在:福岡市博多区博多駅東1丁目12-5博多大島ビル503

〈構成団体と役割〉

- ◆ 特定非営利活動法人高齢者健康コミュニティ 企画
- ◆ 社会医療法人天神会 ワークショップ企画運営
- ◆ 医療福祉経営マーケティング研究会 ハンドブック・マニュアル作成への助言

〈問い合わせ先〉

- ◆ 特定非営利活動法人高齢者健康コミュニティ  
住所 福岡市博多区博多駅東1丁目12-5博多大島ビル503  
TEL 092-292-3333 FAX 092-292-3334  
メール kubota@hc-market.net HP・SNS等 <https://jpcrc.org/>



ハンドブックの表紙

## 課題・背景・目的

日本は世界一の長寿社会を迎えており、健康寿命の延伸や介護重度化の予防が提唱されてきている。これまでは、最期まで安心した医療介護を受けるための介護施設が中心に整備されており、予防・生活支援・生きがい活動を中心に健康寿命を延ばしたいという「自立ニーズ」に応えるための自立型高齢者住宅はほとんど整備されていない。

## 工夫した点

ハンドブック作成にあたっては、米国CCRCの特徴を再整理し、日本に適合させる事例をまとめた。また、顧客満足度調査を実施し、利用者のニーズを分析した。ワークショップでは、国内で地域包括ケアシステムに関するチェックリストがほとんど存在しない現状を踏まえ、協議体独自のチェックリストを作成した。ワークショップのメンバー構成については、社会医療法人天神会が主催する医療介護連携推進会議を活用することで、医療・介護関係者や住民を巻き込んだ。

主な経費

スタッフ人件費、会場使用料、ハンドブック作成費

## 主な取組内容

従来の地域の病院や介護施設に自立型高齢者住宅を組み合わせ、生活支援・医療・介護サービスを包括的に提供することで、地域包括ケアシステムを実現することを目的とした高齢者向けCCRCのハンドブックを作成。地域住民が日常生活圏内で地域包括ケアシステムを構築できるよう、チェックリストを作成するためのワークショップも開催した。また、活動における自立型高齢者住宅の必要性について、第32回日本慢性期医療学会で発表した。

## 事業の成果・今後の展開

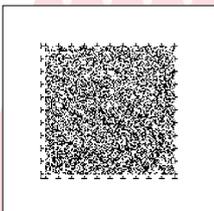
「成功事例から学ぶポジティブエイジングCCRC計画と運営ハンドブック」を作成し、地域包括ケアシステムの実現を目指して、多様な主体が連携するためのチェックリストを作成するワークショップを開催した。このワークショップには、地域のケアマネジャー、医療・介護関係者、まちづくりに関わる住民など、延べ21名が参加し、地域包括ケアシステムについて多様な視点から議論し、特に、全ての分野で災害時の対応が重要であるという共通認識が得られた。今後は、作成したCCRCハンドブックを地域包括ケアシステムの実現を目指す自治体、医療法人、介護保険事業者等に配布し、高齢者のCCRCを積極的に提唱していく。



第32回日本慢性期医療学会での発表



ワークショップの様子



# 幸せねこプロジェクト

## 協議体 地域も人も猫もみんなで幸せプロジェクト

所 在：八女市吉田1151-6

〈構成団体と役割〉

- ◆特定非営利活動法人てろん  
譲渡会の企画運営、猫の捕獲・飼育管理
- ◆株式会社池田モーターズ  
保護猫のシェルター提供、運営
- ◆そとねこさんの手術室  
避妊去勢手術

〈問い合わせ先〉

### ◆特定非営利活動法人てろん

住所 八女市吉田1151-6

TEL 090-9565-6516 FAX 0943-24-9923

メール junjun.ikedai@icloud.com



保護された野良の子猫たち

## 課題・背景・目的

2019年の動物愛護法の改正により、猫の飼い主は、適正な飼養が困難な場合には避妊去勢手術を行うなどの繁殖制限を行わなければならない。しかし、無責任な餌やりや多頭飼育崩壊等が原因で野良猫が増加しており、糞尿被害や殺処分の増加が地域の課題となっている。

## 工夫した点

保護した野良猫は、近親交配による遺伝的疾患を持つ個体も多いため、保護シェルターの温度管理や衛生管理を徹底しつつ、動物病院と連携して治療を行った。また、多くの地域住民に活動を認知してもらえよう、地域住民が多く集まるイベント等へ積極的に参加し、多頭飼育崩壊等の地域課題の紹介や、家猫に対する避妊去勢手術の重要性等のアドバイスをを行った。

## 主な取組内容

地域猫活動（TNR）として、野良猫や依頼を受けた飼い猫に対して避妊去勢手術を行った。また、チャリティーイベントで野良猫への無責任な餌やりだけを行わないよう呼びかける等、地域で野良猫が繁殖しにくい環境づくりに取り組んだ。加えて、保護猫の新しい飼い主を探す譲渡会を定期的に開催し、地域住民と保護猫を結びつける活動を行った。

## 事業の成果・今後の展開

八女市を中心に移動手術車による野良猫の避妊去勢手術を実施し、計200頭の野良猫の手術を行った。また、定期譲渡会を、月2回開催し、100頭以上が新しい飼い主に譲渡された。さらに、八女文化会館でチャリティーイベントを開催するなど、地域に対して啓発活動を行った。今後は、本事業が継続した活動となるようにクラウドファンディングなどにより寄附を募っていく。

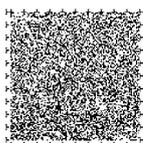
主な経費 去勢手術費、会場使用費、消耗品・材料購入費



野良猫を保護するシェルターの様子



避妊去勢手術を行う移動手術車



# 諏訪川を彩るランタンに願いを載せて

## 協議体 はやめカッパ祭り実行委員会

所 在:大牟田市馬込町1丁目20番地1

〈構成団体と役割〉

- ◆ 駿馬校区まちづくり協議会  
企画、広報、運営
- ◆ 駿馬校区公民館連絡協議会、  
駿馬校区社会福祉協議会、  
駿馬校区民生委員・児童委員協議会、  
はやめ人情ネットワーク  
運営

〈問い合わせ先〉

### ◆ はやめカッパ祭り実行委員会

住所 大牟田市馬込町1丁目20番地1

TEL 090-5489-6561

メール y-ueda@thanks-eng.co.jp



諏訪川に浮かぶスカイランタン

## 課題・背景・目的

大牟田市駿馬校区では「認知症になっても誰もが安心して暮らし続けられる地域づくり」を進めているが、地域の高齢化率は45.2%に達しており、地域の担い手発掘が急務となっている。そこで、諏訪川をシンボルに実施している「はやめカッパ祭り」において、スカイランタンのイベントを実施し、世代間交流を通じた青少年の健全育成や、地域の連帯意識の醸成を図る。

## 工夫した点

世代間交流や青少年の健全育成の場となるよう、地域の学生や社会人、住民を含め約50名がボランティアスタッフとして参加したほか、夕方からは幼稚園児、小中学生、高校生による合唱や演奏、ダンス等のイベントを行った。また、川の恩恵に対する感謝の思いを共有するため、諏訪川の上流域と下流域の地域住民との交流の場を設け、1次産業従事者や各市町村の行政職員等の多様な主体が参加し交流を深めた。

主な経費 消耗品・材料購入費、チラシ・ポスター作成費



駿馬地区の人々の思いや願いをランタンに書き込んだ



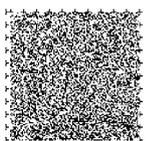
たくさんの方の願いをのせたランタンを諏訪川へ設置

## 主な取組内容

はやめカッパ祭りと同日に、地域住民の願いや思いが直接書き込まれた約200個のスカイランタンを諏訪川の上空に設置。地域住民は空中に浮かんだスカイランタンや、光が川面に映る様子をSNSで投稿するなどして楽しんだ。また、住民の河川浄化の意識向上に資する取組とするため、同日昼にカヌーによる清掃活動や小中学生向けの科学実験教室等を開催した。

## 事業の成果・今後の展開

地域住民約500人がイベントに携わり、会場となった諏訪川の大切さ、水の大事さを共有した。また、熊本県南関町から農業従事者、みやま市から漁協関係者が参加するなど、諏訪川の上流域と下流域の交流の場となったことで、諏訪川を通じた新たな繋がりが生まれている。今後も事業を継続しながら世代間・地域間の交流を深め、諏訪川の環境改善に繋げていく。



# 「警固界限」と呼ばれる若者達の 実態調査と包括的支援体制の構築

## 協議体 プロジェクトF協議体

所 在：福岡市西区女原472-2

〈構成団体と役割〉

### ◆NPO法人SFD21 JAPAN

企画実施、連携調整、協働団体間調整

### ◆きどかつや社会福祉事務所

運営、アンケート作成・とりまとめ

### ◆一般社団法人ソーシャルワーク・オフィス福岡

アンケート実施・分析

### ◆NPO団体 TRY-D.net

人的支援

〈問い合わせ先〉

### ◆NPO法人SFD21 JAPAN

住所 福岡市西区女原472-2

TEL 090-1194-3235 FAX 092-806-9551

メール sfd.2001.japan@gmail.com

HP・SNS等 <https://sfd21japan.com>



代表団体の集合写真

## 課題・背景・目的

近年、家庭や学校等に居場所がなく都心部でたむろする若者が急増しており、福岡県においても、福岡市中央区警固に集まる「警固界限」と呼ばれる若者たちが問題となっている。彼らが何を求めて特定の地域に集結し、何を思っているのかについて定期的な調査・検証を行い、更生のための支援につなげる仕組みを構築する必要がある。

## 工夫した点

アンケート実施時は、拒絶され突き飛ばされるなどの事故の危険性もあるため、スタッフの安全を第一に考え2人1組となり、スタッフ用キャップを着用して身分を明らかにして行動するとともに、若者に声掛けする際は主旨を丁寧に説明し、決して無理強いしないよう心掛けた。

また、腕大学では、アームレスリング体験中のケガ防止のため、安全面を考慮し、レフェリー役を設けるなどスタッフの役割分担に配慮した。

**主な経費** 調査活動旅費、備品製作費、報告書作成費、通信運搬費など

## 主な取組内容

警固に集まる若者を対象とする、腕相撲を利用した居場所「腕大学天神校」を開校。また、若者たちを取り巻く環境や問題の現状を把握するため、現地での聞き取りや、SNSフォームを活用したアンケート形式の意識調査を実施。行政や他の青少年支援団体とも連携しながら、定期的な調査の実施と分析、情報共有を行った。

## 事業の成果・今後の展開

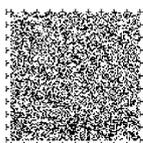
警固公園において「腕大学天神校」を7月から9回開催し、計946人が参加。また、警固公園に集まる10代から30代を中心にアンケートを16回実施し、500人からの回答を得た。調査の結果、若者の家庭環境と行動に深い関連性があることや、どのような居場所を求めているか等が分かった。今後も事業を継続しながら、若者たちの実態を明らかにし、必要な支援につなげる体制を創出していく。



警固公園で開催した腕大学の様子



アンケート前の声かけの方法の確認



# インクルーシブ スマイルコンサート

協議体

## グレープエンジェル

所 在：福岡市南区長住2丁目4-29  
(構成団体と役割)

- ◆NPO法人music Gate 全体統括、運営
- ◆一般社団法人SARAE 企画・運営
- ◆学校法人福岡女学院中学校・高等学校 会場提供
- ◆注文の多い舞台公演実行委員会 企画、舞台手話通訳
- ◆一般社団法人みらい福祉会 企画
- ◆駄菓子「ごぎげんや」 企画

(問い合わせ先)

### ◆NPO法人music Gate

住所 福岡市南区長住2丁目4-29

TEL 090-6429-9543 メール musicgate222@gmail.com



みんなで舞台上がってプロの方とパフォーマンス

## 課題・背景・目的

近年、障がいのある人の数は増加傾向にあり、家庭や学校だけではなく社会全体で支え合う仕組みづくりが求められている。また、障がい児が地域や同世代の子どもたちと交流する機会が少ない状況にある。そこで、障がいの有無に関わらず全ての子どもが参加できるイベントを開催することで、交流を通じて相互理解を深め、障がいのある人々への偏見や誤解を解消する。

## 工夫した点

障がい児と健常児が共に活動する手話歌合唱団は、手話を使ったゲームや挨拶を取り入れて交流を図り、お互いに尊重の意識を持ちながら円滑に意思疎通ができるように工夫した。また、インクルーシブスマイルコンサートでは聴覚障がい者にも音楽を楽しんでもらえるよう、会場の参加者全員に風船を配り、和太鼓などの音楽の振動を体感してもらった。

## 主な取組内容

福岡女学院の教室を利用して、車椅子等を使った障がいの疑似体験のワークショップを行った。また、福岡女学院のギール記念講堂で「インクルーシブ スマイルコンサート」を開催し、コーラスや手話でパフォーマンスを行う子どもたちの合唱団や、プロの音楽家、福岡女学院の学生などが出演し、多様性を認め合い尊重し合う機会を提供した。

## 事業の成果・今後の展開

ワークショップには15名が参加し、障がいのある人の立場になって考え適切な支援方法を理解するよい機会となった。また、インクルーシブスマイルコンサートには延べ164名が参加し、障がい児も健常児と一緒に舞台上に立ったことで自信に繋がり、堂々と表現するきっかけとなった。今後も聴覚障がい者と音楽の間にある壁を取り払う活動や、障がい児と健常児の交流の場を作る活動を継続し、インクルーシブな環境づくりを目指していく。

主な経費

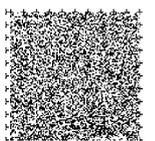
謝金、舞台音響・照明委託費、会場使用料、チラシデザイン制作費



風船で振動を感じる和太鼓演奏



障がい疑似体験



# 不登校・ひきこもりの人及びその家族の 「ほっとスペース」事業

## 協議体 大牟田ひきこもり支援ネットワーク会議

所 在：大牟田市瓦町9-3 総合福祉センター内

〈構成団体と役割〉

- ◆社会福祉法人大牟田市社会福祉協議会 企画運営、広報
- ◆特定非営利活動法人大牟田市障害者協議会 企画運営、職場体験・就労体験先の紹介
- ◆筑後若者サポートステーション 企画運営、職場体験・就労体験先の紹介
- ◆大牟田市保健福祉部福祉支援室福祉課 企画運営
- ◆大牟田市教育委員会 企画運営、小中学校への情報提供
- ◆不登校・ひきこもり家族の会「ふきのとう」 企画運営、活動場所の管理運営
- ◆子ども家庭支援センターあまぎやま 企画運営、専門職の派遣
- ◆一般社団法人OMUTA BRIDGE 企画運営
- ◆大牟田市社会福祉法人地域公益活動協議会 企画運営、活動場所の提供
- ◆大牟田市民生委員児童委員協議会 企画運営、啓発活動
- ◆「80・50問題」学習会実行委員会 企画運営

〈問い合わせ先〉

### ◆社会福祉法人大牟田市社会福祉協議会

住所 大牟田市瓦町9-3 TEL 0944-32-8851 FAX 0944-85-8382  
メール t.baba@omshakyo.or.jp



「ほっとスペースふきのとう」外観

## 課題・背景・目的

不登校・ひきこもりは誰にでも起こりうることだが、その当事者と家族は、家族の閉塞感や将来への不安、他者からの偏見等といった多くの苦しみを抱えている。また、不登校・ひきこもりに対する理解者が近くにいないことから、行き場を失ったり、社会復帰への一歩を踏み出せない当事者のための理解者を増やす活動と居場所づくりが必要となっている。

## 工夫した点

「ほっとできる安心・安全な居場所」を目指し、まずは利用者を見守るよう心掛けている。

大牟田市教育委員会より市内の小・中学生が「ふきのとう」への来所を、学籍簿上出席扱いとするとの通知をいただいた。しかし、それを目的に子どもたちに「ふきのとう」に行くことを強要しないよう保護者や支援者に理解を求めた。また、ひきこもり支援サポーター養成講座については、不登校やひきこもりに対する理解者を増やすことも目的の一つとして開催した。

**主な経費** スタッフ人件費、講師謝金、通信運搬費、水道光熱費

## 主な取組内容

大牟田市において、不登校・ひきこもりの当事者と家族のための居場所「ほっとスペースふきのとう」を開設し、不登校・ひきこもりの理解者を増やすため、不登校・ひきこもり支援サポーター養成講座を開催した。また、当事者の家族がひきこもりに対する理解を深め、相談や情報交換を行うため、不登校・ひきこもり家族の会を設立した。

## 事業の成果・今後の展開

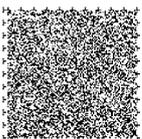
大牟田市に開設したほっとスペースふきのとうは、毎月約40名の当事者やその家族が利用しており、利用者からは「こんな居場所ができてよかった。」といった声が上がっている。令和6年7月に立ち上げた不登校・ひきこもり家族の会には、現在19名が会員として登録しており、定期的に不登校やひきこもりの家族の会を開催している。また、ひきこもり支援サポーター養成講座は全3回の講座を開催し、最終的には30名が修了し、うち18名からひきこもり支援サポーターへの登録希望の申し込みがあった。今後も、理解促進やより良い居場所づくりのため、取組を継続していく。



ひきこもり支援サポーター養成講座



「不登校・ひきこもり家族の会ふきのとう」設立総会



## 多言語で創るノンバーバル演劇

## 協議体 Multilingual Theater Fukuoka

所 在:福岡市南区玉川町

〈構成団体と役割〉

◆FOURTEEN PLUS 14+

企画、運営、広報

◆福岡ろう劇団博多

手話通訳、手話監修、広報

〈問い合わせ先〉

◆FOURTEEN PLUS 14+

TEL 090-4771-4835

メール mtf2024.contact@gmail.com



『アンネ・フランク』の一場面

## 課題・背景・目的

福岡県ではろう者や難聴者が楽しめる手話通訳に対応した演劇の公演数が少ない状況にある。また、韓国からの訪日観光客が多く文化的な交流も盛んであるが、多言語に対応した演劇も同様に数が少ない。そこで、海外の方々やろう者・難聴者が共に楽しめるよう、作中で言語表現を使用せず表情やジェスチャーで表現する演劇を日韓共同で創作する。

## 工夫した点

多言語が入り混じる中で作品を完成させるため、手話通訳、日本語・韓国語通訳を稽古の時から配置した。演劇中は効果音をきっかけにして演技がスタートしていたが、ろう者・難聴者の出演者にも円滑にタイミングを伝えるため、他の演者が出演者の肩を触って合図するなどのアイデアを盛り込んで創作した。成果発表後は観客との意見交換や関係者のみの協議の場を設け、課題を明確にした。

主な経費 謝金、旅費、人件費、通信運搬費、動画制作費



通訳者(手話、韓国・日本語)を介して話し合った

## 主な取組内容

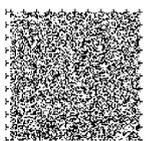
ろう者・難聴者、聴者の出演者と韓国人の演出家、振付家、俳優によって、日本語、韓国語、手話でコミュニケーションを取りながら、言語表現を使わない15分ほどの短い作品を創作。福岡市内において、成果発表・意見交換会を実施し、出演者がジェスチャーや小道具を使って表現したり、シーンに合わせて音楽や効果音が流れる音響を組み込んだ作品を上演した。

## 事業の成果・今後の展開

成果発表・意見交換会には約33名が参加した。言語や文化の違いはあったが、共感しながら制作できる手応えを感じた。一方で、この創作活動が「聴者優先」になっていないかという課題にも直面した。また、「聴こえる／聴こえない」だけでなく、日韓の文化の違い、年齢の違いも創作の上で重要な要素だと気付くことができた。今回の企画を通して可能性と課題の両面が見え、今後数年のプロジェクトの第一弾として価値あるスタートとなった。



俳優・スタッフ集合写真



# LGBTQ+当事者と家族、支援者のための 居場所&悩み事相談事業

## 協議体 和みカフェ Rainbow Harbor

所 在:大野城市栄町

〈構成団体と役割〉

### ◆GID Link

企画・運営、広報、相談対応、調査

### ◆FHV ~Free Happy Vividly~

広報、研修、調査

〈問い合わせ先〉

### ◆GID Link

住所 大野城市栄町

メール theta.nobu@gmail.com

HP・SNS等 <https://harbor.my.canva.site/dagdudof2fi>



防災ワークショップの様子

## 課題・背景・目的

LGBTQ+の当事者の多くは、家族にも相談しにくいという悩みを抱えており、孤独感から引きこもりや不登校となるケースが多く、当事者の高齢化も進んでいる。当事者同士の交流事業や交流できる拠点は都市部には多いが、アクセスしづらく孤立化が進む当事者やその家族のために、年齢を問わず身近な場所で相談できる居場所が必要となっている。

## 工夫した点

当事者が将来に希望を持てるよう、就職や結婚に関する悩みを共有し、当事者の体験談を紹介する等の活動を行った。

また、若者が相談しやすいようLINEを使った無料相談窓口を設置し、ゲームを交えた交流イベントも企画した。さらに、当事者の家族や地域住民の理解を深めるため、災害時の課題を共に考えるワークショップを実施した。

## 主な取組内容

大野城市を主な拠点とし、LGBTQ+の当事者や家族、支援者を対象とした交流の場「和みカフェRainbow Harbor」を開催した。無料相談への対応のほか、当事者の抱える孤立感の解消のために交流イベントを開催し、当事者同士での交流を深めた。また、当事者のためのセルフケア講座や防災ワークショップを開催した。

## 事業の成果・今後の展開

LGBTQ+の当事者を対象に、大野城市で和みカフェを9回開催し、約40名の当事者やその家族が交流を図った。LINE無料相談窓口には23件の相談があり、家族との関係性に悩みを持つ多くの当事者からの相談に対応した。また、講師を招いたセルフケア講座には3名、防災ワークショップには8名が参加した。今後は、LGBTQ+当事者を対象とした無料相談・講座の開催を継続して実施するとともに、LGBTQ+の生徒の受け入れ体制改善のため、行政にも働きかけながら、当事者への支援を継続していく。

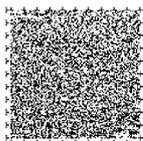
主な経費 人件費、講師謝金、会場使用料、チラシ作成費



当事者の会(クリスマス会)



セルフケア講座の様子



# 地域の環境分野における未来の リーダーを養成する体験型学習会

## 協議体 未来のグリーンリーダー養成協議体

所 在:久留米市新合川1-1-3

〈構成団体と役割〉

- ◆ 特定非営利活動法人筑後川流域連携倶楽部 企画運営
- ◆ 一般社団法人おてて 広報、会計監査
- ◆ 一般社団法人ぷらっとどっと 運営、会計
- ◆ 久留米市環境政策課 事業への助言、広報サポート

〈問い合わせ先〉

- ◆ 特定非営利活動法人筑後川流域連携倶楽部  
HP・SNS等 <http://ccrn.jp/shoukai/shoukai.html>



久留米市西部のクリークを見学

## 課題・背景・目的

人々の暮らしを支える豊かな自然環境は、近年の人口減少や国土の劣化、インフラ設備の老朽化、激甚災害の頻発等により、崩壊の危機にさらされている。持続可能な地域環境を維持していくため、子どもたち及びその保護者を対象とした体験型の環境学習プログラムを実施し、環境分野のリーダーの発掘・養成を行う。

## 工夫した点

筑後川流域の水質、生物、ごみ、上流と下流の違い等、多角的な視点で、流域の環境について学ぶことができる体験型のプログラムを実施した。筑後川流域の環境は天候の影響を受けやすく、計画どおりの実施が困難な状況もあったが、地域の方々の協力もあり、実施する事ができた。



上流域の水の透明度に驚く参加者達

## 主な取組内容

水生生物や海洋ごみ、森林保全等に関する講座や、生物観察、水質検査体験等の活動を通じて、環境保全の必要性を学ぶプログラムを実施した。また、プログラムに参加するなかで得た学びや体験についての活動発表の機会を設け、活動内容の周知及びアウトプットを通じた参加者自身の学びの定着を図った。

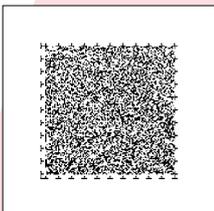
## 事業の成果・今後の展開

体験型の学習プログラムを4回開催し、延べ76名(大人23名、子ども53名)が参加。また筑後川防災施設くるめウス館内で活動成果の発表展示を行い、約5,000名に対し活動成果の周知を行った。参加者からは地域によって多様な自然のかたちがあり大切に守っていく必要があるといった声が聞かれ、地域において環境保全のための意識が醸成された。今後はより安定的な財源の確保に取り組みながら、協働の輪を拡げていく。

主な経費 人件費、バス借り上げ料、謝金、ポスター作成費など



クリークの水を採取し水質検査を行った



# マイライフプログラム ～女性就活準備講座～

## 協議体 ママドラフト会議 in 飯塚・実行委員会

所 在: 飯塚市潤野1311-2 諸原テナント4号室

〈構成団体と役割〉

- ◆ 伴走型子育てサロン HugCome Fam. (はぐくむふあむ) 企画運営、広報
- ◆ 特定非営利活動法人ママワーク研究所 企画、講師
- ◆ 株式会社チャムズ 企画運営、広報
- ◆ 飯塚市 会場提供、広報

〈問い合わせ先〉

### ◆ 伴走型子育てサロン HugCome Fam. (はぐくむふあむ)

住所 飯塚市潤野1311-2 諸原テナント4号室

TEL 080-1150-1009

メール hug.work12mama@gmail.com



ママドラフト会議での参加企業の前でのスピーチ

## 課題・背景・目的

昨今、出産・育児をきっかけに休職・退職をしている女性の多くが社会復帰を希望している。一方、飯塚市内の企業においては人手不足が重要な課題となっており、市も支援を行っているが、正規雇用を対象とするもので育児期女性の環境に合わせた短時間雇用についての支援は少ない。そこで、女性にステップアップの機会を提供するとともに、育児期女性と企業とのつながりを創出し、地元企業における育児期女性の雇用を促進する必要がある。

## 工夫した点

休職や退職を経験した育児期女性が再び社会人として働くための自信を取り戻すことをテーマに講座を実施。参加者一人一人にコンシェルジュが伴走し、相談しやすい環境づくりを行いつつ、トレーニングを行った。育児期女性ならではの強みを上手く引き出したことで、ミートアップイベントで出会った企業に対しても自信を持って意見を主張することが出来るようになった。

## 主な取組内容

飯塚市において、育児期の女性を対象としたキャリアアップ講座を実施。自己ブランディングやライフプラン設計等、参加者の自信や勤労意欲を高める内容とした。また、育児期の女性と企業のミートアップイベント「ママドラフト会議」を実施し、参加者による自己PRスピーチや相互交流を通して、育児期の女性と企業とのつながりを創出した。

## 事業の成果・今後の展開

全3回の講座を通して、延べ8名が参加し、5名の修了生を輩出した。ママドラフト会議には企業3社が参加し、修了生は積極的に自己アピールを行うなど、全員が復職、再就職に向けて前向きに活動している。今後は、新たな飯塚市内の企業の参画を増やしていくほか、本事業を経て就労を始めた女性たちが、本人の希望に合わせてステップアップを目指していけるよう、取組を継続していく。

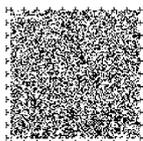
主な経費 スタッフ人件費、講師謝金、チラシ・ポスター作成費



就労意欲を高めるマネー講座



ママドラフト会議で参加企業と受講生の交流



# EMIARE Project

## 青少年交流&環境保全活動

### 協議体 むなかた人の和プロジェクト

所 在:宗像市三倉17-1

〈構成団体と役割〉

- ◆宗像フェスCSR推進実行委員会  
企画、運営
- ◆MVC(むなかたボランティアカレッジ)  
企画、運営
- ◆帝人フロンティア株式会社  
絵本用紙製作

〈問い合わせ先〉

#### ◆宗像フェスCSR推進実行委員会

住所 福津市西福岡4-6-15

TEL 0940-22-8308 FAX 0940-51-2013

メール office@munafes.jp

HP・SNS等 <https://www.muna-csr.com/>



海岸清掃活動の様子

### 課題・背景・目的

世界遺産のある宗像、福津の海岸では、近年大量の漂着ごみが押し寄せている。また、プラスチックごみがさらに小さなマイクロプラスチックとなり、魚がそれを食べることで人体への影響も心配されている。そこで、漂着ごみを回収、リサイクルする事で、不法投棄問題、海岸の環境悪化の現状を広く伝えていく活動を実施する。

### 工夫した点

日韓の学生がともに海岸清掃に取り組むことで、国際交流を図るとともに、漂着ごみの問題は国境を越えて取り組む必要があることを伝えた。また、絵本製作においては、協議を重ねる中で生まれた学生一人ひとりの自由な発想を取り入れることで、小さな子どもでも手に取りやすいサイズ・内容に作り上げることができた。

### 主な取組内容

日韓の学生が協力し、海岸清掃で収集したペットボトルから作られたリサイクルペーパーを使用し、海の環境問題をテーマとした絵本を製作。絵本にはキャラクターの「宗像のテンちゃん」が登場し、宗像市で開催される「宗像祭」の会場において販売を行った。また、北斗の水くみ海浜公園において、日韓の学生及び教員による海岸清掃を実施した。

### 事業の成果・今後の展開

日韓の学生を含む延べ90名が企画協議に参加し、絵本を100冊作成。「宗像祭」において発表、販売した。海岸清掃には、日韓の学生と教員計59名が参加。台風の影響を受けたものの、安全面に配慮しつつ清掃を実施した。今後も地域の学生や企業の参加を促進しながら、海岸の環境問題の解決に向け、清掃活動を継続していく。



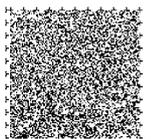
製作販売した100冊の絵本

#### 主な経費

絵本製作費、バス借り上げ料、消耗品・材料購入費、チラシ・ポスター作成費



絵本の内容会議の様子



# 視覚障がい者の災害時における避難に関する情報提供と実態調査

## 協議体 視覚障がい者の防災委員会

所 在:福岡市博多区板付4丁目11-1-112

〈構成団体と役割〉

- ◆NPO法人ハッピーライド  
企画・運営・アンケートの作成
- ◆一般社団法人福岡市視覚障害者福祉協会  
会場提供、広報、アンケート実施
- ◆一般社団法人喫茶ポエム福祉作業所  
避難訓練実施、広報

〈問い合わせ先〉

### ◆NPO法人ハッピーライド

住所 福岡市博多区板付4丁目-11-1-112

TEL 080-7983-3388 FAX 092-201-8435

メール 39@happyride.info HP・SNS等 <https://happyride.info>



アンケート実施風景

## 課題・背景・目的

災害時、視覚障がい者は、自主避難や情報の取得が難しく支援から取り残されやすいという課題があり、平時からの防災意識の向上や避難時の各種支援についての認知度向上が必要である。

そこで、本事業では、アンケート調査をもとに視覚障がい者の防災や避難に関する意識を把握し、災害時に必要な情報の提供や平時からの備えについて助言を行う。

## 工夫した点

アンケートはスタッフによるインタビュー形式で実施し、調査対象者の発言から気になった内容を更に深掘りすることで、具体的な被災エピソードや潜在的なニーズを聞き取ることができた。

また、本調査で把握した災害時の困りごとや疑問点をまとめた解説動画を制作し、HPやSNSで県民向けに広く発信した。

## 主な取組内容

福岡市視覚障害者福祉協会の会員や障がい者支援施設などの利用者を対象として、防災意識や情報の取得方法などに関する聞き取り調査を実施。併せて、各種支援に関する情報提供や当事者の障がいの程度や家族構成などに応じた避難方法について助言を行った。

また、障がい福祉サービス事業所の利用者が安心・安全に避難できるよう、防災訓練を実施した。

## 事業の成果・今後の展開

視覚障がい者及びその家族など計162名に聞き取り調査を実施した。調査では、行政の支援や避難所に関する情報の不足などの理由により、「災害時に避難所への避難意思がある」と回答した方は10%未満であった。

そこで、調査対象者には、緊急連絡先やかかりつけ病院などを記入できる「安心カード」や福祉避難所などに関する情報を提供した。

今後は、視覚障がい者の災害時の避難・支援に関する講演会や体験会を実施していく。

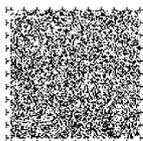
主な経費 人件費、旅費、消耗品・材料購入費など



防災訓練(防災センター)



視覚障がい者向けの防災に関する情報提供と講演



# こども食堂運営事業と子どもたちに 第4の居場所を確保する事業

## 協議体 100人カレー推進協議会

所 在:福岡市中央区大名2-1-43 東洋マンション大名406号  
(構成団体と役割)

- ◆NPO法人まなびや木の木  
企画・運営、広報
- ◆一般社団法人ひだまり  
ボランティア支援

〈問い合わせ先〉

### ◆NPO法人まなびや木の木

住所 福岡市中央区大名2-1-43 東洋マンション大名406号  
TEL 090-2857-6079  
メール info01@kinoki.jp HP・SNS等 <https://www.kinoki.jp>



100人カレー弥永

## 課題・背景・目的

家庭が抱える困難が複雑・深刻化し、地域のつながりも希薄になる中、子どもが安心して過ごせる居場所がなく、孤食・孤立するケースが増加している。福岡市でも子どもたちが安心して食事をし、自由な時間を過ごすことができる自宅や学校以外の居場所が必要とされている。

## 工夫した点

地域の社会福祉協議会や近隣小学校など多方面へ呼びかけを行うことで、これまで子ども食堂を利用した経験がなかった子育て世帯や地域の高齢者、ボランティア活動を経験したい方にも参加してもらうことができた。

また、参加者が健康な食生活に必要な知識と理解を深めることができるよう、栄養バランスや食習慣に関する学習教材を配布した。

## 主な取組内容

福岡市の弥永・警固・舞鶴の3か所の公民館において、月1回地域住民を対象とした子ども食堂「100人カレー」を開催。元フレンチシェフが地元の野菜や果物を使った手作りカレーを提供した。あわせて、子どもたちが安心してのびのびと過ごすことができるよう、遊びや学習の環境づくりや絵本の読み聞かせなどを実施した。

## 事業の成果・今後の展開

子ども食堂を計27回開催し、子どもから大人まで延べ1,850人の参加があり、ボランティアをしたい大学生や高齢者の活躍の場をつくることができた。参加者からは、大人数での食事の楽しさや社会とのつながりを感じることができたとの声が寄せられた。今後も、100人カレー食堂が子どもの居場所や多世代の交流の場となるように活動を継続していく。

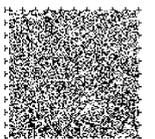
主な経費 人件費、旅費、印刷代



100人カレー警固



絵本の読み聞かせ



# 人と本の力で、子どもたちが豊かな未来を築くための居場所作り事業

## 協議体 読み聞かせボランティア『わくわく』

所 在:福岡市城南区神松寺1-23-39-2

〈構成団体と役割〉

- ◆一般社団法人ひだまり  
企画・運営、広報
- ◆わくわく文庫  
読み聞かせ講師

〈問い合わせ先〉

### ◆一般社団法人ひだまり

住所 福岡市城南区神松寺1-23-39-2

TEL 080-9102-5535

メール hidamari202103@gmail.com

HP・SNS等 <https://hidamari333.net>



ひだまりフェス・読み聞かせ会

## 課題・背景・目的

子どもの読書活動は、子どもの言語能力や感性を育み、健やかに成長していく上で不可欠なものである。しかし、現在の日本では、7人に1人の子どもが貧困状態にあると言われており、子どもの貧困が読書活動にも大きな影響を与えている。

家庭の経済状況等にかかわらず、全ての子どもたちが自ら本に親しめる環境づくりが必要である。

## 工夫した点

一人でも多くの子どもたちにひだまり図書室を知ってもらえるよう、ホームページやリーフレット、SNSなどさまざまな媒体を活用して広報活動を行った。

また、読み聞かせボランティア養成にあたっては、スキルアップや成長意欲を促すため、講座を開催するだけでなく、実践する場を提供した。

## 主な取組内容

地域コミュニティの場「ひだまり図書室」において、子どもたちを対象とした絵本の読み聞かせ会、スタッフやボランティア活動に興味のある方を対象とした読み聞かせの実技・本の選び方などについて学ぶ講座を開催した。また、その講師及び受講生による子育て中の家族や子どもたちに向けた読み聞かせ会などが楽しめるイベント「ひだまりフェス」を実施した。

## 事業の成果・今後の展開

読み聞かせ会には、延べ30人が参加。読み聞かせ講座には、延べ50人が参加するなど、子どもが本に親しむ場としてだけでなく、読書活動に関わる人材も育成することができた。

また、ひだまり図書室の利用者数や図書貸出数も増加し、たくさん子どもたちに本の大切さや楽しさを伝えることができた。

今後は、校区社会福祉協議会とも連携を図り、より地域に密着した子どもたちへの読書環境の提供を目指していく。

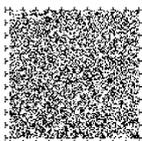
主な経費 人件費、旅費、ボランティア保険料、リーフレット制作費など



読み聞かせボランティア講座・絵本の持ち方



ボランティアによる読み聞かせ



# 農福連携「サツマイモプロジェクト」事業

## 協議体 子どもの居場所づくりと自律支援協議会

所 在:糟屋郡新宮町原上1579

〈構成団体と役割〉

- ◆ 特定非営利活動法人Kauhora  
企画・運営、活動場所の提供
- ◆ 特定非営利活動法人ぎんともも 行政との連携
- ◆ 美和台校区社会福祉協議会  
広報、人員・設備提供
- ◆ 学校法人立花学園立花高等学校 人員提供

〈問い合わせ先〉

- ◆ 特定非営利活動法人Kauhora  
TEL 090-4349-4307  
メール kauhora.inf@gmail.com  
HP・SNS等 <https://www.kauhora.com>



芋ほり体験

## 課題・背景・目的

近年、学業や対人関係のストレス、家庭環境、心や身体の健康問題など、さまざまな理由から学校を長期欠席する子どもたちが増加している。このような状況の子どもたちは、自己否定感を感じやすく、他者とのつながりも希薄になる傾向がある。

また、地域社会においては、耕作放棄や農業の担い手不足といった問題が深刻化しており、本事業では農業を通じた子どもたちの自律支援活動に取り組む。

## 工夫した点

立花高等学校の農業班や糸島フードラボと連携することで、さつまいもの旨味を活かしたペーストやジャムなどの商品開発に成功し、高校生が社会経験を積む場も創出することができた。

また、美和台校区社会福祉協議会を通じて、地域の高齢者が作業に参加することで世代を超えた交流の場となり、地域コミュニティの活性化にもつながった。

主な経費 人件費、謝金、旅費、消耗品・材料購入費など

## 主な取組内容

立花高等学校の不登校経験のある生徒や福岡市内のフリースクールに通う子どもたち、また不登校傾向にある地域の子どもたちに呼びかけ、耕作放棄地を活用し、さつまいも苗の植え付け、草刈り、収穫、加工品製造まで行う農業体験を実施。

また、農作業以外にも月に一回、子どもの不登校に悩む保護者を対象としたお話を開催した。

## 事業の成果・今後の展開

農業体験には、立花高等学校の生徒や地域の子どもたちなど延べ150人の参加があり、子どもたちたちが農作業を通して成功体験を積み重ね、自己肯定感や自己有用感を高めることができた。

お話会には、保護者や支援者など延べ42人が参加し、子どもとの関わり方や将来の選択肢を共に考えることで、保護者の不安や悩みを解消させることができた。

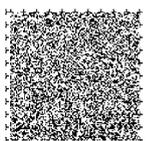
今後は、生きづらさを抱える子どもたちに就労の場を提供できるよう、事業の6次産業化を進めていく。



さつまいも畑の草刈り



焼き芋の加工の様子



# 『ばあばのお家(おうち)』

## 協議体 めくもりLab

所 在:福岡市中央区梅光園

〈構成団体と役割〉

◆HUG組Lab

企画・運営、会計

◆NPO法人musicGate

運営、広報、会場提供

〈問い合わせ先〉

◆HUG組Lab

住所 福岡市中央区梅光園

TEL 090-7393-5657

メール hagukumiwimd@gmail.com



好きな具を入れて私だけのお好み焼き

## 課題・背景・目的

福岡市は、市外からの転入が多く、人口は一貫して増加を続けている。保育園や放課後児童クラブなどの地域の子育て支援施設も大規模になり、子どもたちが自分の意見を表明することが困難な状況にある場合も多い。

また、子育て家庭における核家族の割合が増え、子育てが孤立化する傾向にあり、子育てに不安や負担を感じる保護者も増加している。

## 工夫した点

軽食づくりでは、調理から具やトッピングの選択、片付けまでの一連の作業を子どもたちが自ら行うことで子どもの自信や達成感につなげ、協調性を育むことができた。子どもたちと関わる際は、子どもたちがやりたいことを出し合いながら、過ごし方を決められるように配慮した。

また、地域の方にも、工作やコンサート、コマ回し、ボードゲーム等に参加してもらうことで、子どもたちが多様な人間関係を体験することができた。

主な経費 人件費、消耗品・材料購入費、保険料、チラシデザイン費など

## 主な取組内容

福岡市南区において、小学校の長期休暇や始業式などの行事後や土曜日・日曜日に、子どもたちとその保護者を対象とした居場所づくりを実施。地域の音楽教室を会場として、梅ヶ枝餅や山賊おにぎりなどの軽食づくりのほか、けん玉・工作教室、外遊び、室内楽のミニコンサートなどを実施し、子どもや保護者同士が親睦を深め、安心して過ごせる自由な空間を提供した。

## 事業の成果・今後の展開

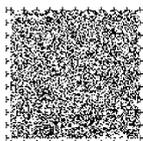
子どもの居場所づくりを計10回実施し、参加人数は延べ大人20人、子ども96人となった。手作りのお金を使ったお店屋さんごっこなど様々な遊びを通して、子どもたちが自分の気持ちを表現する楽しさを知ることができた。また、保護者の子育ての負担を減らすとともに、身近に相談相手がいる安心感を与えることができた。今後も継続して子どもの居場所づくりを行い、子どもや子育て世帯の不安や孤立を解消していく。



ばあばと紙相撲



けん玉名人登場



# 学校に行きづらい子、社会になじめない人への自立支援事業

協議体

## 自立支援あさくら協議会

所 在:朝倉市杷木久喜宮1508-2

〈構成団体と役割〉

- ◆特定非営利活動法人フリースペース よつば  
企画・運営
- ◆杷木コミュニティ連合会  
地域への広報・啓発、体験活動場所の提供
- ◆朝倉市教育委員会  
学校現場への広報・啓発、体験活動場所の提供

〈問い合わせ先〉

### ◆特定非営利活動法人フリースペース よつば

住所 朝倉市杷木久喜宮1508-2

TEL 080-3905-7233

メール yotsuba.free@gmail.com

HP・SNS等 [https://www.instagram.com/shirotsumekusa\\_2525](https://www.instagram.com/shirotsumekusa_2525)



小中学生や高校生の意見交換会

## 課題・背景・目的

特定非営利活動法人フリースペース よつばが運営する小中学生向けのフリースクール(以下よつば)を卒業し、高校等へ進学しても、うまく仲間を作れず、ひとりで思い悩んでいる子どもやその保護者は多い。高校生は、進路や人間関係、将来への不安など、様々な悩みを抱えやすい時期であり、地域内で気軽に相談できる居場所が必要である。

## 工夫した点

福祉バザーやあさくら子ども祭りへの参加など、高校生自身が主体的に活動資金を集める活動を行うことで、自己肯定感を育み、自立に向けた自信へと繋げることができた。

また、講演会では近い世代である久留米大学の大学生に講師を依頼し、隔月に開催する意見交換会にも参加してもらうことで高校生が気軽に学校生活の不安や悩みについて相談することができ、前向きに将来を考えるきっかけとなった。

## 主な取組内容

よつば卒業後の子どもたちが気軽集って話せる場としてフリースペースを毎日開放した。併せて、高校での悩みや不安に関する日常的な電話相談や定期テスト前の学習支援を実施した。また、中学生が高校生から進路に関してアドバイスをもらう交流会や「自分らしくいのちを輝かせて生きること」をテーマとした講演会を開催した。

## 事業の成果・今後の展開

居場所づくりや様々な学習・体験活動を通じて、高校生の不安や孤独感を解消し、自立する力を育むことができた。

また、24名が参加したよつば交流会では、中学生に自信をもって自分の学校を紹介したり、相談にのったりする高校生の姿を見ることができた。

今後も、関係機関に働きかけを行いながら、苦悩している高校生に寄り添った地域の居場所を増やしていく。

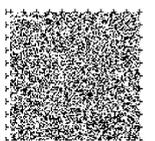
### 主な経費 人件費、謝金、旅費、筆記用具代など



夏のレクリエーション



高校生が制作した商品



# 社会的養護の子どもたちの交流・ 体験応援事業

## 協議体 社会的養護の子どもたちの体験応援の会

所 在：福岡市城南区別府2丁目19番1

〈構成団体と役割〉

- ◆一般社団法人ふくおかフォスターサポートセンター  
企画・運営、広報、会計
- ◆福岡市里親会  
企画・運営、広報

〈問い合わせ先〉

### ◆一般社団法人ふくおかフォスターサポートセンター

住所 福岡市城南区別府2丁目19番1

TEL 080-1724-7835 FAX 092-846-7520

メール FFSC.satooya66@gmail.com

HP・SNS等 <https://www.instagram.com/ffsc.81/?hl=ja>



参加者全員で掛け声とともに一斉に力を合わせて網を引きます

## 課題・背景・目的

子どもと子育てをめぐる社会環境が複雑・深刻化する中で、保護者の適切な養育を受けられない子どもが増えており、子どもたちを社会全体で保護し、健やかに育てていくことが求められている。しかし、里親制度を利用する家庭同士が交流を深める場や児童養護施設で暮らす子どもたちが自然や文化に触れる機会が少ない状況にある。

## 工夫した点

浜辺付近にコーンや縄で立入禁止ゲートを設置するとともに、監視員が常駐し海の事故について注意喚起を行った。小さな子どもの参加者が多かったので、子どもと大人が必ず1対1のペアで活動することで安全にイベントを実施することができた。

また、海洋ごみ問題についての関心と環境保全活動の意識を高めてもらうため、イベント終了後に参加者全員で海岸の清掃活動を行った。

## 主な取組内容

福岡市及び近郊地域の里親子や児童養護施設の子どもたちに呼びかけ、糸島市深江海水浴場で地引網の漁、魚の選別・仕分け、調理まで行う体験活動を実施。あわせて、豊かな自然に囲まれた環境で大縄跳びなどのレクリエーションやBBQ・そうめん流しなどを行い、子どもたちの感性の育成や参加者同士の交流を図った。

## 事業の成果・今後の展開

地引網のイベントには、里親子や学生ボランティアなど約100名が参加した。アジやイカなど21種類の海産物が獲れ、自然の生き物に触れる貴重な体験機会となった。また、子どもたちは、魚の選別や調理など初めての体験に戸惑いつつも、大人や友人に教わりながら実践し、成功体験や参加者の交流につなげることができた。

今後も、里親家庭や児童養護施設の子どもたちの親睦が深まるような大規模イベントを開催していく。

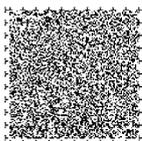
主な経費 人件費、ボランティア謝金・旅費、施設使用料、地引網費用など



想像以上の大漁に子どもも大人も大興奮



子どもたちは、ボランティアに教わりながら初めて生きた魚を捌きます



# えほん楽団 みんなのこどもコンサート

## 協議体 えほん楽団 みんなのこどもコンサート協議体

所 在:福岡市博多区光丘町

(構成団体と役割)

- ◆NPO法人えほん楽団 企画・運営、演奏
- ◆NPO法人愛い空 子ども食堂会場提供、広報
- ◆北九州市折尾西市民センター  
コンサート会場提供、広報
- ◆いかわ学校 子ども食堂会場提供、広報
- ◆ぶどう食堂実行委員会 子ども食堂会場提供、広報

(問い合わせ先)

### ◆NPO法人えほん楽団

住所 福岡市博多区光丘町  
TEL 090-3012-4581  
メール ehongakudan@gmail.com  
HP・SNS等 <https://ehongakudan.com>



みんなのいとしま こどもコンサート

## 課題・背景・目的

病気や障がい、家庭の経済状況を理由に芸術文化の体験機会に恵まれない子どもたちが増えており、体験格差の解消が必要である。

優れた芸術文化の体験は、子どもの豊かな感性や想像力、コミュニケーション能力等の成長に大きな効果が期待される。

本事業では、誰もが楽しめる垣根のないコンサートの開催により、豊かな音楽と文化を提供する。

## 工夫した点

こども食堂コンサートでは、SDGsをテーマにした絵本を取り上げるなど、社会問題への関心を育むとともに奏者が子どもたちの目の前で楽しく演奏し、普段触れる機会が少ないハーブやクラリネットなどの楽器の演奏体験を実施した。

また、福岡出身の東京藝術大学に通う大学生に演奏を依頼することで、若手音楽家の経験・成長の場を創出することができた。

## 主な取組内容

県内4地区のこども食堂において、子どもたちとその保護者を対象に入場無料の絵本コンサートを開催。絵本のストーリーにのせたクラシック音楽や音やリズムに合わせて体を動かすリトミックを取り入れ、生演奏した。

また、不妊治療経験のある作家や聴覚障がいのある作詞家をゲストに迎え、困難を乗り越え制作した絵本と楽曲の紹介・演奏を行った。

## 事業の成果・今後の展開

こども食堂において、発達障がい・療育支援、SDGsをテーマとした『みんなのこどもコンサート』を計8回実施し、幼児から高齢者、障がいのある方など幅広い層に楽しんでもらえるコンサートとなった。

また、こども食堂での音楽体験をきっかけに自ら音楽ホールに足を運んでもらうため、500円で入場できるこどもコンサートを開催し、のべ550名の参加があり、音楽体験を通じて、子どもたちの協調性や自己表現力を育むことができた。

今後も、こども食堂コンサートをさまざまな地域で開催し、多くの子どもたちが芸術文化に触れる機会を提供していく。

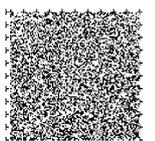
主な経費 演者謝金、人件費、旅費、委託費、楽器運搬費、チラシ作成費等



こども食堂コンサート 田中ノ焼鳥 世界で活躍するバリトン歌手・新見準平氏とともに



SDGsえほん楽団みんなのこどもコンサート 北九州市在住 絵本作家・くわきりょう氏



# 不登校児童生徒とその保護者を 地域につなぐ架け橋事業

## 協議体 りっぷるプロジェクト

所 在:福岡市城南区神松寺3丁目  
(構成団体と役割)

- ◆NPO法人Chou・chou  
企画・運営、広報
- ◆すてっぷカフェ  
保護者支援、広報
- ◆一般社団法人 発達障害支援アドバイザー協会  
研修講師、機材提供

(問い合わせ先)

### ◆NPO法人Chou・chou

住所 福岡市城南区神松寺3丁目  
TEL 090-2964-6444 FAX 092-873-6058  
メール chou.chou.fuk@gmail.com  
HP・SNS等 <https://r.goope.jp/chouchou-web>



VR体験

## 課題・背景・目的

福岡市立小中学校における不登校児童生徒は年々増加しており、地域では「親の会」として、子どもが不登校となった経験のある保護者が相談相手となり、教育環境の情報提供や体験談を共有する活動を実施している。しかしながら、発達障がいや児童の福祉に関する知識が不足していることや「親の会」同士の繋がりが希薄であることが課題となっている。

## 工夫した点

研修会・勉強会は、城南区内の「親の会」へ周知を図った。また、VRを使って自閉症の子どもが見ている日常生活を体験する勉強会について、テレビ取材を依頼し取り上げられた。

講演会については、福岡市役所、学校、城南区社会福祉協議会、城南区民生委員児童委員協議会、放課後等デイサービスなど多方面から情報を発信することにより、多くの市民参加に繋がった。

## 主な取組内容

福岡市城南区の不登校当事者とその保護者を対象に、発達障がい支援や子どもの権利条約、学校外教育等に関する勉強会(全3回)と、不登校に関する講演会を実施。また、不登校の子どもを持つ親の語り場「すてっぷカフェ」(月1回)を開催するとともに、不登校支援の人材育成を目的とした研修会(全5回)を実施した。

## 事業の成果・今後の展開

勉強会には延べ84名、研修会には延べ43名、講演会には延べ54名が参加。城南区内の「親の会」、他区の「保護者の会」代表、城南区の民生・児童委員等様々な関係者が参加し、不登校支援のネットワークが広がった。

また、すてっぷカフェの参加者は、昨年度より増加し、延べ47名となった。

今後は、今回の事業で得られた知識とスキルを活かして、城南区外へ不登校支援の輪を広げる。

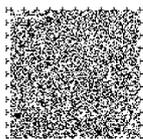
主な経費 人件費、謝金、旅費、チラシデザイン費など



講演会「いま、改めて考える不登校。世界を見つけ、地域で踏み出す新たな第一歩」



「学ぼう子どもの権利条約」柳優香弁護士



# 医療とアートの協働で演劇ワークショップを開発・実施する事業

協議体

## ドラマエディケーションで「分かりづらい生きづらさ」を解消する協議体

所 在:筑紫野市紫1丁目

〈構成団体と役割〉

- ◆NPO法人えんげき広場cue 企画・運営、広報、会計
- ◆あなざーわーくす ワークショップ講師
- ◆九州大学大学院医学研究院 地域医療教育ユニット 糖尿病に関する知見提供

〈問い合わせ先〉

### ◆NPO法人えんげき広場cue

住所 筑紫野市紫1丁目  
TEL 090-1193-2315  
メール info@drama-cue.art  
HP・SNS等 <https://drama-cue.art>



再現ドラマを練習する様子

## 課題・背景・目的

厚生労働省の調査によると、日本の糖尿病患者は予備軍を合わせて約2000万人と推計されている。食事療法や運動療法、薬物療法などの自己管理を続ける必要があるが、傍目には病気を抱えて生きていることが分かりにくいという難しさがある。多様化した現代社会では、自分とは異なる価値観や背景を持つ人の立場に立って考える「他者理解」の重要性が高まっている。

## 工夫した点

小学校でのワークショップでは、患者だけでなくその家族のエピソードを聞くことで、家族の戸惑いや悲しみなどを表現する機会となり、より深く糖尿病という病気のもつ分かりづらい生きづらさを学ぶことができた。

また、特別支援学級の児童もグループに参加し、一緒に演劇の制作・発表を行うことで、成功体験を積むことができた。

## 主な取組内容

糖尿病患者の「分かりづらい生きづらさ」の理解を深めるため、小学校の児童や地域住民向けに演劇ワークショップを開催。参加者は、糖尿病患者やその家族から糖尿病にまつわる「辛かったこと」などのエピソードを聞き、印象に残った場面を「再現ドラマ」に創作し、発表した。

また、今回のワークショップの内容や感想などについてまとめた報告書を作成し、学校や文化会館などの公共施設に配布した。

## 事業の成果・今後の展開

ワークショップ2回で延べ67名が参加（児童31名、地域住民15名、糖尿病患者10名、講師・補助講師他11名）。演劇を通して、参加者の他者の気持ちを考える想像力や自己表現力を高めることができた。また、糖尿病患者やその家族からも「病気の話ができて、演じてもらってよかった」との声が寄せられ、双方にとって貴重な機会となった。

今後は、全国の小学校や地域に本ワークショップが広がるように、公共文化施設や教育委員会にも働きかけを行っていく。

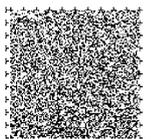
主な経費 人件費、謝金、旅費、会場使用料、チラシ印刷費など



グループ発表の様子



地域住民参加型の演劇ワークショップ



## お問い合わせ・アクセス

住所：〒812-8577 福岡市博多区東公園7-7 県庁舎1F

連絡先： ☎ 092-643-3938 📠 092-643-3848

✉ kyodo@pref.fukuoka.lg.jp

アクセス： JR「吉塚」駅より徒歩約8分／西鉄バス「県庁前」バス停より徒歩約1分  
福岡市営地下鉄「馬出九大病院前」より徒歩約5分

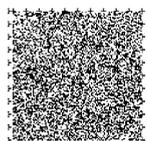
■ コラボステーション福岡

<https://www.csf.pref.fukuoka.lg.jp/>



福岡県

コラボステーション福岡  
(人づくり・県民生活部社会活動推進課)



※この冊子はイオン九州株式会社、株式会社ダイエー、トヨタL&F福岡株式会社、大坪GSI株式会社、明治安田生命保険相互会社、株式会社セブン-イレブン・ジャパンから福岡県共助社会づくり基金への寄附金を活用して作成しています。

福岡県行政資料	
分類記号 JA	行政コード 5200116
登録年度 06	登録番号 0003